

(11)九州



九州地域では、景気は緩やかな回復基調が続いている。

- ・ 鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(↑は上方に変更、↓は下方に変更)

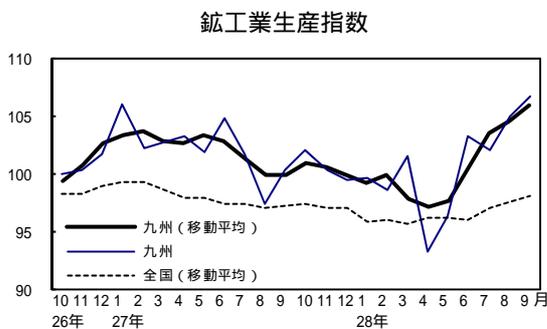
前回調査からの主要変更点

	前回(平成28年8月)	今回(平成28年11月)	
景況判断	一部に弱さがみられるものの、緩やかな回復基調	緩やかな回復基調	
鉱工業生産	熊本地震による影響がみられたものの、おおむね横ばい	持ち直しの動き	
個人消費	弱含み	おおむね横ばい	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。

7～9月期には、輸送機械は熊本地震からのばん回生産等により増加した。電子部品・デバイスは半導体集積回路(CCD・その他)等の生産が増えたことから増加した。はん用・生産用・業務用機械は半導体製造装置等が熊本地震による前期の生産減少の反動等から増加した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		4～6 月期	7～9 月期	7月	8月	9月
輸送機械	24.5	1.1	7.5	5.4	3.2	9.4
電子部品・デバイス	12.3	1.8	17.7	9.4	4.5	2.8
はん用・生産用・業務用機械	11.2	0.4	21.3	1.1	2.3	0.4
食料品	9.6	2.2	0.2	0.2	1.7	2.6
化学・石油石炭製品	8.3	7.2	1.1	1.8	9.0	3.4
鉱工業	100.0	2.4	7.2	1.3	2.9	1.6

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 7～9月期、9月は速報値。

(備考) 1. 22年=100、季節調整値。九州の最新月は速報値。

2. 全国及び九州の太線は中心3か月移動平均。

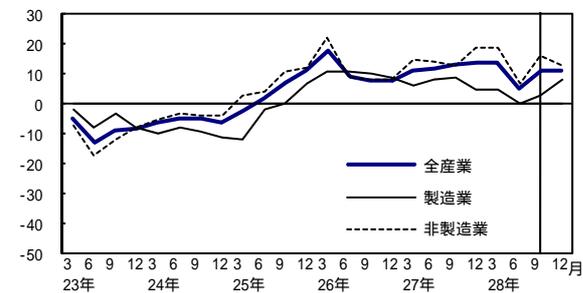
直近月は2か月平均。

(11) 九州

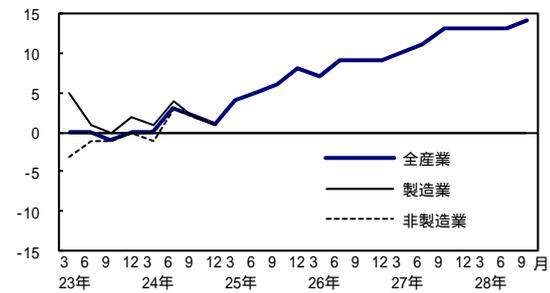
(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。

企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



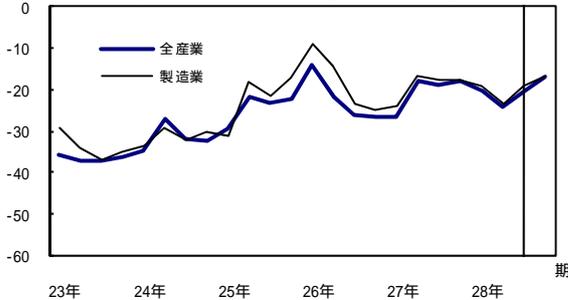
(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。28年12月は予測。
26年12月は新・旧基準を併記。

(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
26年12月は新・旧基準を併記。25年3月から
製造業・非製造業は非公表となっている。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断]



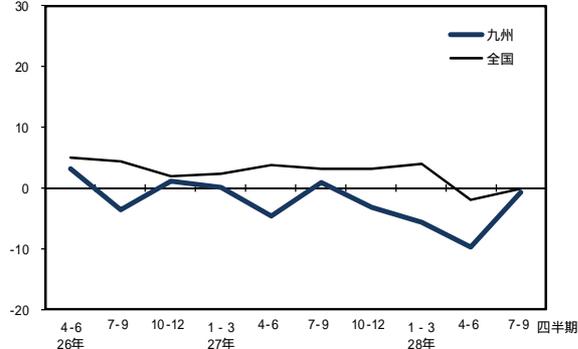
(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。28年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(10月調査結果)[企業動向関連(現状)]

「受注量が安定しており非常に仕事がしやすい。良い方向に向かっている(電気機械器具製造業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事はおおむね横ばい。

(%) 民間非居住用建設工事費(前年同期比)の推移



企業短期経済観測調査 [設備投資(9月調査)]

(前年度比、%)

	27年度実績	28年度見通
全産業	26.1	16.7 (17.9)
製造業	64.1	28.8 (30.3)
非製造業	5.8	0.8 (0.4)

(備考) 1.()は前回(6月)調査比修正率。

2. リース会計対応ベース。

3. 沖縄を含む。

2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

7月は前月比0.9%増、8月は同1.0%減、9月は同0.5%減となった。

百貨店・スーパー販売額

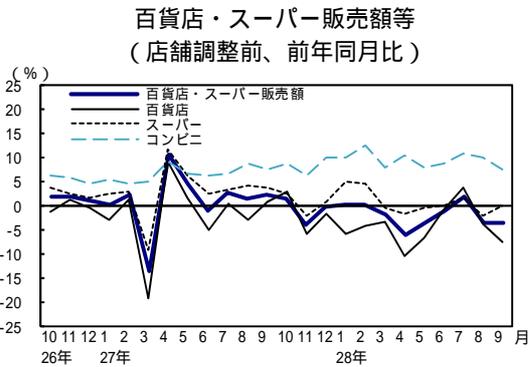
百貨店は、7月は前年に比べ土日が2日多いことに加え、気温の高い日が続いたことから、クリアランスセールで衣料品に動きがみられたほか、飲食料品や化粧品等の動きもよく、前年を上回った。8月は前年に比べ土日祝日が1日少ないことに加え、気温の高い日が多かったことにより、衣料品、飲食料品の動きが鈍く、前年を下回った。9月は、気温高、台風などの天候不順の影響に加え、前年の地元プロ野球チームのリーグ優勝セールの反動などにより、全ての品目で動きが鈍く、前年を下回った。

スーパーは、衣料品の動きが鈍く、前年を下回った。

景気ウォッチャー調査 (10月調査結果)[家計動向関連(現状)]

「夜の繁華街はあまり良くないが、昼間の観光地の予約が大変良く、連日車が不足している。

遠距離の客も増え、海外の客も若干増えている(タクシー運転手)」など、「やや良くなっている」とする回答が増加した。



	28年7-9月	7月	8月	9月
RDEI (消費*1)	0.1	0.9	1.0	0.5
百貨店・スーパー(*2)	1.8	1.6	3.8	3.6
百貨店(*3)	2.2	3.4	4.0	7.6
スーパー(*3)	0.3	1.6	2.4	0.1
コンビニ(*3)	9.3	10.7	9.7	7.5
乗用車(*4)	1.2	1.4	5.7	2.1
(季節調整値)(*4)	6.2	5.3	4.4	4.3

(備考) 1. 季節調整前(月)比(%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比(%)

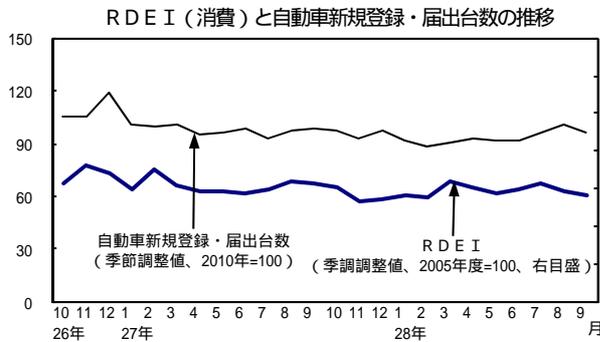
百貨店・スーパーは内閣府にて算出。

3. 店舗調整前、前年同期(月)比(%)

・百貨店、スーパーは沖縄を含む経済産業省の九州の値。

・コンビニは、経済産業省の九州・沖縄の値。

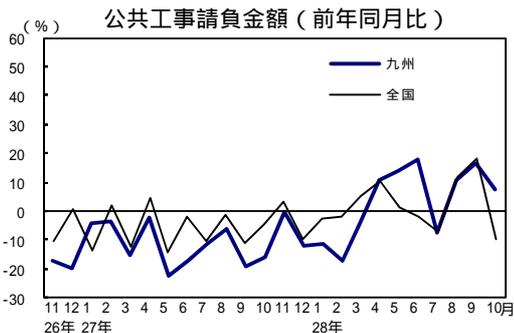
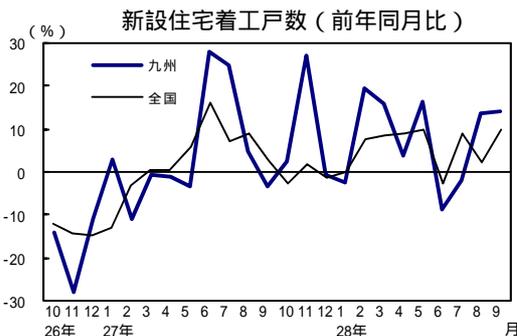
4. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



(2) 住宅建設は増加している。

持家、貸家が前年を上回ったことから、増加している。

(3) 公共投資は28年度累計でみると前年度を上回っている。

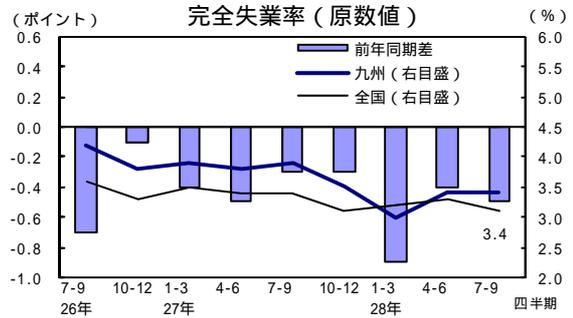
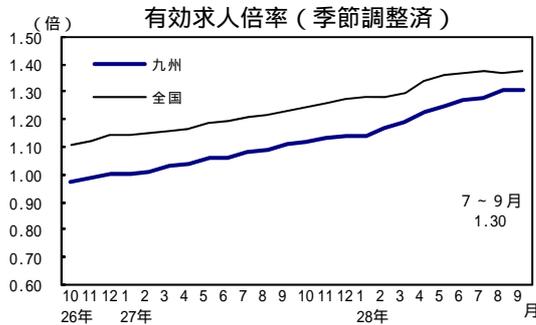


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率等

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査(10月調査結果)[雇用関連(現状)]

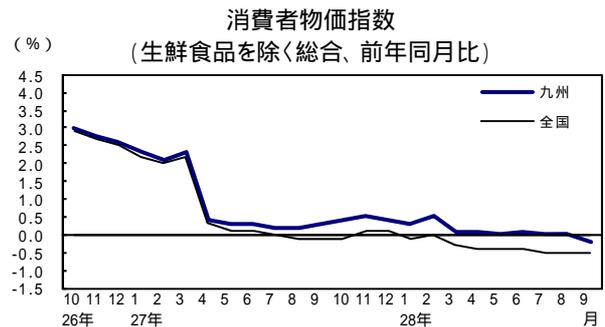
「全業種において新規求人が増えているが、中でも労働者派遣業を含む製造業や娯楽業の求人が増加している(職業安定所)」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は、件数は減少しているものの、負債総額は増加している。

(3) 消費者物価指数は下落に転じている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	27年10-12月	28年1-3月	4-6月	7-9月	28年10月
倒産件数	147	151	146	151	54
(前年比)	9.3	13.7	20.7	4.4	3.8
負債総額	274	395	271	387	42
(前年比)	27.1	60.4	5.4	79.0	49.3



景気ウォッチャー調査(10月調査結果)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

・婚礼の売上は落ちているが、宴席利用と宿泊は少し良くなってきている。具体的な数字は出ていないが地震の影響もない(都市型ホテル)。

<先行き>

・見積案件も大型物件がいくつかあり、その1つを受注した。工期も短く今期の売上になり、収益でも貢献できるので景気は良くなる(建設業)。

